

結婚してそろそろ四年。お互い責任ある仕事を持ち、夫婦二人で毎年海外旅行。いわゆるDINKSを楽しんでいたものの、いつかは子供が欲しいと願っていました。周りからも「お子さんは？」の声をかけられることが多くなり、少々焦りの出てきた頃、大樹を授かりました。

妊娠中、病院の超音波で大樹を見る度、かわいくてかわいくて、早く会いたい気持ちで一杯でした。ある検診の日、先生から「女の子のようですね。」と言われ、秋生まれに因んだ女の子の名前を一生懸命考えました。出産前日の検診でも「女の子」との太鼓判。穂香(ほのか)というかわいらしい名前を用意して、出産にのぞみました。



平成8年10月15日午前3時25分。待望の第一子誕生で感動のご対面！！のはずが、助産婦さんの一言「おめでとうございます。元気な男の子ですよ。」に、痛さも感動も忘れ「へっ！？」とびっくり仰天してしまいました。しまった、女の子の名前しか考えていないし、女言葉でずっと話しかけちゃった。どうしよう…と思ったのは束の間。パパそっくりで、元気な赤ちゃんを見ているうちに何ともいえない幸せな気持ちに包まれ、脳裏に清しい自然の風景が現れてきました。ベッドで休んでいる時、ビビッと響いてきた「大樹」という音。大地にしっかりと根を下ろし、枝葉を広げて堂々たる風格の大きな樹。男の子ならそんなスケールの大きい、頼りがいのある人になってほしい。そして、大都会の片隅に暮らしていても自然の雄大さや恵みを感じる人になってほしい。そんな願いを込めて、我が家の宝物に「大樹」と名付けました。今では、名前の通り元気にすくすくと成長し、「だいちゃん」の愛称で皆から可愛がられています。

大樹町の存在を知った時、出産の日に私の脳裏に浮かんだのは、きっと大樹町の風景なのではないかと、運命的なものを感じました。いつか必ず大樹町を訪れ、我が家の心のふるさとにしたいと思っています。その時は四人で…。大樹はもうすぐお兄ちゃんです。(母)

ぼくのパパはテレビ局で働いています。パパがぼくの名前を考えたのは山形県にお仕事に行った時だと聞いています。国体の取材でした。平成四年の山形国体の時でした。パパが行った時に国体マスコットの「大樹くん」(たいきくん)が気に入って、ぼくの名前をつけたと聞きました。



「大樹くん」は山形蔵王の樹氷をもとにして考えられたといえます。パパが教えてくれました。「大樹くん」は全身真っ白で、とってもかわいいそうです。これがぼくの名前の由来です。

パパは実際、取材で大樹町に行ったことがあります。パパはぼくと同じ名前の町が北海道にあることを知って、一度は行って見たかったそうです。会社のコンピューターで天気の情報を探していたとき、大樹町はたいへん寒いことがわかりました。

パパは日本で一番寒い町の特集をテレビでやりました。ぼくは子供なので一緒に行けなかったのですが、パパは北海道の陸別町、大樹町、広尾町をカメラで撮ってきました。陸別には天文台がありました。広尾にはサンタクロースがいました。大樹にはロケットがありました。パパはお土産に大樹チーズと大樹ワインを買ってきて、ぼくと同じ名前だ、といって酔っ払っていました。

でも、パパが大樹という名前をつけたのは、山形国体のマスコットだけが理由ではありません。「よらば大樹のかげ」ということわざも理由だといいました。ぼくが大人になった時、困ったひとがぼくの所に集まるくらいの人望を持って、ということだそうです。

## 神奈川県横浜市の大樹さん

特別住民番号1625

昭和57年1月31日午後11時22分、第一子男子誕生。

その日の朝、出血があり下腹部が痛み出す。日曜日だったが、出産予定日より6日も遅れていたため心配になり病院へ電話する。そこで初めて、それが陣痛の始まりだと分かった。病院の先生から、「慌てないで、陣痛の合間に風呂に入り身体をきれいにして、陣痛が十分間隔になれば病院に来なさい。」と言われ、病院に着いたのが午後8時。出産は明日になるという事で夫は帰り、一人陣痛に耐えながら長い一日が過ぎようとしていた時、急に産気づき分娩室へ。無事出産。へその尾が切られると同時に「オギャー」と元気な産声、その声を聞いた途端、身体から力が抜け今までのつらさはどこへやら、喜びに変わった一瞬でした。



一夜明けると、昨日の寒さとは打って変わって暖かい光が病院のベッドにさし込み、この子の誕生を歓迎してくれている様だった。夫が来て、白い紙に「大樹」と書いたのを見せてくれた。お腹にいる時から男子と分かっていたので、夫が「名前の付け方」の本と首っ引きで考えた名前だった。長い年月の間、どんな環境にも耐え大きく育った不動の樹、人としても大きく育つ事を願って、「大樹」と命名。名前の特徴に、元気、活発と書いていたのも気に入った様だ。そして、暖かく包んでくれた今朝の大気の様子に、やさしい心を持つ人に育ててほしいと、呼び方を「たいき」と決めました。赤飯を持って京都からかけつけてくれた両親も祝ってくれた。

17年の歳月を経て、息子は高校三年生、名前に負けないくらい元気に育ってくれました。しかし、大学受験を控えて、今まさに人生の岐路に立っています。どの様な道を選ぶのか未知数ですが、今やっと大地に根を付かせようとしている若木です。これからは、自分の力で根をはって、大地から生きる知恵を学んで大きく育つ事を願っています。

大樹町の皆様、この様な企画をありがとうございました。息子は、いつか、大樹町へ行ける日を楽しみにしています。(母)

## 熊本県鹿央町の大樹さん

特別住民番号1627

ぼくは、上にお姉ちゃん、下に妹がいます。だからぼくは、長男で、男一人です。この名前は、お父さんが、つけてくれました。「大樹」。読んだ字のごとく、大きな木のように、どっしりと、強く育つようにつけられました。杉の次に大がくると、気の強い少しわがままな性格になると姓名はんだんで、言われたけど、男だからいいと、思っつけたそうです。それと、みょうじにも合うということだからです。



## 島根県三隅町の大樹さん

特別住民番号1628

ぼくの「大樹」という名前は、お父さんがつけました。

お母さんがぼくを生む時、ずいぶん出血し、心配と苦勞をかけてぼくは生まれました。病院の先生の話では、出血の量は、700cc以上はあったかもしれないということでした。



お父さんは、そんな出産の様子を見て、「お母さんにこれほど苦勞をかけて生まれたのだから、元気な子に育つことが君のつとめだ。」という思いから、大木のように、たくましい子になることを祈って、「大樹」という名前をつけたそうです。

「大樹」とつけられた理由はもう一つあります。ぼくにはお姉ちゃんが一人います。生まれつき「肺動脈狭さく」という病気で、今は元気ですが小さい頃は、何度も入院して、

心臓カテーテルを何回もしたそうです。そんなお姉ちゃんを見てきたお父さんやお母さんですから、次に生まれてくる子が、元気な子どもであって欲しいと願う気持ちは、人一倍強かったと言っていました。お姉ちゃんが生まれる前は、男ならこんな名前、女ならこうしようと色々考えたそうですが、ぼくの時は、生まれる前に名前を考えることはしなかったそうです。男でも女でもどっちでもよい、男がよいとか女がよいと、そんなことを願うのはぜいたくな話だと思ったのです。五体満足に生まれることが、決して当たり前のことではないということを知り、とにかく元気な子どもが生まれることだけを祈ったようです。

だから、ぼくの「大樹」という名前には、体も心も大きく育てて欲しいという気持ちと、丸々とした大きな赤ちゃんをさずかったという感謝の気持ちが込められています。

ぼくも、傷口からばい菌が入ったり、脱水症状になりかけたりして、小さい頃二度入院しましたが、今は元気いっぱいです。これからも体をきたえて、たくましい男になろうと思っています。

## 千葉県柏市の大樹さん

特別住民番号1630

平成6年の暑い暑い夏、我が家の長男「大樹(たいき)」は元気な産声をあげました。当初から男の子が欲しかった私達にとって、大樹の誕生は本当に待ちに待った喜びでした。予定日より10日以上早く産まれてきたのですが、3,220グラムと大きな赤ちゃんでした。名前については、妊娠中からいくつか考えていたのですが、男の子か女の子かも分からなかった為にまだ漠然としておりました。そこで、私の入院中に、候補の名前を主人と主人のご両親に検討してもらい、「大樹」に決めてもらいました。「大樹」という名前は、まさに息子の為にあるようなものと思い、早速私も賛成しました。と言いますのは、私達の名字は「どい」と申します。漢字にしますと「土肥」。つまり土が肥えているという意味です。良い土には青々とした葉を茂らせた立派な木々が育ちます。私達の息子も、この肥えた大地から様々な養分を吸収し、空高く堂々と立つ「大樹」のように大きく成長して欲しいという願いを込めて「大樹」と付けた次第です。草原にそびえ立つ大きな樹は、涼しい木陰を作り、人々は自然とそこに腰を下ろし体を休めます。鳥や虫達も沢山集まって来るでしょう。私達の息子も、そんな樹のように、「大きくて優しい」人間に成長する事を願っております。そんな息子もこの夏五歳になりました。お父さんに似たのでしょうか、男の子にしては手先の器用な、よくしゃべる明るい子供に育っています。まだ、大地に芽生えたばかりですが、内に様々な可能性を秘めている土肥家の小さな新芽を、のびのびと、そして真っすぐに空へ向かって育ててあげたいと心から思います。その為には、私達両親が、明るい太陽になり、水になり、雨風を防ぐ屋根になって、全力で守っていこうと思います。いつか、息子が大きく枝をのばし、私達はその木陰に腰を下ろせる、そんな時がきつときつと来ると、私達は信じています。



最後に、この度のエピソードを書くにあたって、息子に対する私達の思いを、こうして改めて文章に残せた事を心より感謝しております。(母)

## 静岡県小山町の大樹さん

特別住民番号1636

大樹という名前は、その家族の名前と誕生月に由来します。  
父は、耕一(2月生まれ)。母は、このみ(11月生まれ)。  
姉は、佳代(1月生まれ)。兄は、葉(よう、8月生まれ)といひます。  
そして、大樹(だいき)は5月に生まれました。  
寒い寒い冬に、土を耕します。  
そして、夏を経て、秋に木の実をまきました。  
その木の実は、次の春を経て、夏にかわいい葉っぱを出します。  
そして、やがて大きな大樹となるのです。  
大樹は、父、母、姉、兄にまもられて、おおらかで、ちからづよい人になってもらいた





と思います。

そして、みんなにまもられて育った大樹は、今度はみんなをまもれるような、名前にふさわしい人間になってほしいと思います。(父)

## 北海道伊達市の大樹さん

特別住民番号1643

ぼくのじいちゃんの名前は、茂です。ばあちゃんの名前は、幸子です。お父さんの名前は、実です。お父さんの弟の名前は、久志です。みよう字は、若松です。お父さんが小さい時にじいちゃんは、家族の名前から若い松が実って、茂って、幸せがいく久しく続くようにとみんなの名前があるんだとお父さんに言っていたそうです。お父さんは、その話を覚えていて、今度は、その若い松が大きく、元気に育つようにという願いをこめて、ぼくの名前をつけたそうです。松という木は、他の木と違って冬になっても緑のままです。いつまでも元気で丈夫な子供に育てて欲しいという願いもこめられています。



## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1647

「小さく生んで大きく育てろ」と長男が母親の胎内にいるとき誰かが言っていた。確かに出産の苦しみを考えればそうかもしれない。

しかし、我が家の長男は、出産時の体重は2,540グラムで枯れ枝のようだったのだが、33時間12分とたっぷり時間をかけて、母親の苦しみを知ってか知らずか、休み休みゆっくりと出て来た。

「的を射て妙」こんな事もあるのかと夫婦二人して笑った事を思い出す。

誕生したらすぐに名前を役所に届けようと、病院で男の子と確認できたときから辞書を繰ったり字画を調べてみたりしたが、悩んだ挙げ句、妻の知人の占い師に頼み幾つかの名前を出して貰った。その中から「山の口の大きな樹」どっしりと根を生やし、世の中を豊かな気持ちで見つめ、正しく素直に、そして、人に頼られるような心の大きな人になってほしいという沢山の思いを込めて「大樹」と命名した。

あれから13年、親ばかと言われるかもしれないが、素直に心優しく育ててくれたと思う。生まれた時のように奥手なのか、はたまたじっくり構えているのか、横に大きく縦にはなかなか伸びてくれない。きっとここぞという時にグーンと伸びるに違いないと親の希望は大きいのだが、いたって本人はおっとり刀で呑気なものだ。

大樹町を知ったのは平成4年の春、熊本から北海道へ家族三人で移住し、新天地の地図を開いているとき我が子と同じ名前の地名を発見した。家族揃ってこの偶然に驚きやら親しみやら、自然の豊かな北海道にふさわしい町名だと感じた。

釣りが大好きで、おっとり刀の天然小僧大樹君。名は体を表すという諺があるように、名前に恥じない人になって欲しいと願う親の気持ちは「大樹」の如く夢と期待に大きく膨れるばかりである。(父)



## 北海道苫小牧市の大樹さん

特別住民番号1667

こんにちは。

ぼくの名前は、妹尾大樹です。

とまこまいにすんでいる小学二年生です。ぼくの名前は、お父さんが、テレビのニュースで大樹町の名前を見ていて、これがいいと思って、つけたそうです。でも、ぼくは、まだ大樹町には一ども行ったことがありません。



前略

私達一家は平成2年に静岡から北海道へ引越して来ました。そして翌年の平成3年に次男が札幌で生まれました。次男の名前をあれこれ考えている時、ニュースで大樹町の名前を見て、ああ、これがいいと思いました。我が家で唯一、正真正銘の道産子である次男には是非北海道に因んだ名前をと考えていたので、北の大地にしっかりと根を張った人になって欲しいという意味で、「大樹」という名前は、私の考えていたイメージにぴったりでした。かくして我が家の次男坊は「大樹」と名付けられて、元気にすくすく育ち、現在七才の小学二年生となりました。今回、大樹町で「大樹」という名前が付く人を募集していると知り、これも何かの縁かと思いペンを取った次第です。

草々

平成10年8月25日(父)

---